

## 食品安全委員会の運営について（令和4年4月～6月）（案）

### 1. 食品安全委員会の開催

4月：854回・855回・856回（3回）

（1）食品健康影響評価の要請案件（4品目）

農薬（3品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イソフェタミド</li> <li>・クロルフルアズロン</li> <li>・フルトラニル</li> </ul>
農薬及び動物用医薬品（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シペルメトリン</li> </ul>

（2）食品健康影響評価の結果通知案件（3品目）

動物用医薬品（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジアベリジン</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;"><u>「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」の3（3）①に該当する成分であると判断され、現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、食品健康影響は無視できる程度と考えられる。</u></p>
遺伝子組換え食品等（2品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JPAN004株を利用して生産された<math>\alpha</math>-アミラーゼ</li> <li>・JPBL007株を利用して生産された<math>\alpha</math>-アミラーゼ</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;"><u>「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」に基づき評価した結果、人の健康を損なうおそれはないと判断。</u></p>

（3）その他

- ・「食品安全委員会の運営について（令和4年1月～3月）」を報告

5月：第857回・858回・859回・860回（4回）

（1）食品健康影響評価の要請案件（11品目）

農薬（4品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピリプロキシフェン</li> <li>・フルピラジフロン</li> <li>・フルミオキサジン</li> <li>・メトキシフェノジド</li> </ul>
農薬及び動物用医薬品（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イソプロチオラン</li> </ul>
動物用医薬品（4品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クエン酸モサプリドを有効成分とする牛の強制経口投与剤（牛用プロナミド散2%）</li> <li>・スルファチアゾール</li> <li>・モサプリド</li> <li>・牛ウイルス性下痢ウイルス（<i>N<sup>pro</sup></i>及び<i>E<sup>ns</sup></i>遺伝子欠損1型・2型）生ワクチン（ボベラ）</li> </ul>
遺伝子組換え食品等（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ROM株を利用して生産されたα-アミラーゼ</li> </ul>
飼料添加物（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩酸L-ヒスチジン</li> </ul>

（2）食品健康影響評価の結果通知案件（16品目）

添加物（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・25-ヒドロキシコレカルシフェロール  <u>栄養強化剤としてカプセル・錠剤等通常の食品形態でない食品に使用すると、より多量に、高頻度に摂取するおそれがあり、リスク管理機関において、使用基準（案）を含むリスク管理措置について改めて検討する必要。</u>  <u>妊婦が栄養強化剤として25-ヒドロキシコレカルシフェロールを摂取することに関するリスク管理措置を検討する必要。</u>  <u>以上のおおりに、25-ヒドロキシコレカルシフェロールを栄養成分関連添加物として使用することについては、懸念があると考えた。</u>  <u>乳児及び小児における25-ヒドロキシコレカルシフェロールの健康に及ぼす影響を評価することはできないと判断。</u> </li> </ul>
農薬（8品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセキノシル  <u>ADIを0.022 mg/kg体重/日、ARfDを0.073 mg/kg体重と設定。</u> </li> <li>・トリネキサパックエチル  <u>ADIを0.0059 mg/kg体重/日、ARfDを0.6 mg/kg体重と設定。</u> </li> <li>・トリフロキシストロビン  <u>ADIを0.05 mg/kg体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u> </li> <li>・ピラジフルミド  <u>ADIを0.021 mg/kg体重/日、ARfDを1.6 mg/kg体重と設定。</u> </li> <li>・ピリダリル  <u>ADIを0.028 mg/kg体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u> </li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホスチアゼート ADIを0.002 mg/kg体重/日、一般の集団に対するARfDを0.007 mg/kg体重、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対するARfDを0.002 mg/kg体重と設定。</li> <li>・ゾキサミド ADIを0.47 mg/kg体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</li> <li>・イソピラザム ADIを0.055 mg/kg体重/日、ARfDを0.3 mg/kg体重と設定。</li> </ul>
農薬及び添加物（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フルジオキシニル ADIを0.33 mg/kg体重/日、ARfDを2.5 mg/kg体重と設定。</li> </ul>
動物用医薬品（3品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンピシリンナトリウムを有効成分とする牛の注射剤（注射用ピクシリン） <u>動物用医薬品として適切に使用される限りにおいては、食品を通じて人の健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えられた。なお、本製剤の使用に当たっては、アンピシリンナトリウムがβ-ラクタム系抗生物質であることから、今後実施される薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価に留意する必要がある。</u></li> <li>・チオプロニン <u>「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」の3（3）①に該当する成分であると判断され、現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、食品健康影響は無視できる程度と考えられる。</u></li> <li>・スルファチアゾール <u>本品目は、海外の主要国においても、承認の取消しや残留基準の削除がなされていることから、農産物及び使用の対象となる動物に使用される可能性は低いと考えられる。また、残留基準を削除した場合、本成分は、抗菌物質であることから、食品に「含有してはならない」という、現状より厳しい管理措置がとられることから、この管理措置が適正に実施される場合にあっては、今後本成分が残留した食品が国内で流通する可能性はないと考えられるので、当該残留基準の削除については、食品安全基本法第11条第1項第2号の人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるときに該当すると考えられる。</u></li> </ul>
動物用医薬品及び飼料添加物（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クエン酸 動物用医薬品及び飼料添加物としてADIを設定する必要はない</li> </ul>

	<p>く、動物用医薬品及び飼料添加物として通常使用される限りにおいて、食品に残留しその食品を摂取することにより人の健康を損なうおそれのないことが明らかであると考えた。</p>
飼料添加物（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンラマイシン</li> </ul> <p>「<u>暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について</u>」の3（3）①に該当する成分であると判断され、<u>現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、食品健康影響は無視できる程度と考えられる。</u></p>
遺伝子組換え食品等（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<i>Komagataella phaffii</i> BSY0007 株を利用して生産されたフィターゼ</li> </ul> <p>「<u>遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方</u>」に基づき評価した結果、改めて「<u>遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準</u>」に準じて評価する必要はなく、<u>当該飼料添加物を摂取した家畜に由来する畜産物については人の健康を損なうおそれはないと判断。</u></p>

(3) その他

- ・令和3年食中毒発生状況の概要を報告（厚生労働省）

6月：第861回・862回・863回・864回（4回）

(1) 食品健康影響評価の要請案件（1案件、3品目）

添加物（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポリビニルアルコール</li> </ul>
動物用医薬品（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オメプラゾールを有効成分とする馬の強制経口投与剤（ガストロガード）</li> </ul>
遺伝子組換え食品等（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JPBL013株を利用して生産された<math>\alpha</math>-アミラーゼ</li> </ul>
薬剤耐性菌（1案件）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アミノグリコシド系抗生物質が動物用医薬品として家畜に投与された場合に選択される薬剤耐性菌</li> </ul>

(2) 食品健康影響評価の結果通知案件等（2案件、8品目）

企画等（2案件）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度食品安全委員会運営状況報告</li> <li>・令和3年度食品安全委員会緊急時対応訓練結果報告</li> </ul>
農薬（4品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くん液蒸留酢酸</li> </ul> <p><u>農薬として想定しうる使用方法に基づき通常使用される限りにおいて、食品に残留することにより人の健康を損なうおそれのないことが明らかであると考えられる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イソフェタミド</li> </ul>

	<p><u>ADIを0.053 mg/kg体重/日、ARfDを3 mg/kg体重と設定。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クロルフルアズロン <u>ADIを0.033 mg/kg体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断。</u></li> <li>・パラコート <u>ADIを0.0045 mg/kg体重/日（パラコートイオン換算値）、ARfDを0.0045 mg/kg体重（パラコートイオン換算値）と設定。</u></li> </ul>
動物用医薬品（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オメプラゾールを有効成分とする馬の強制経口投与剤（ガストロガード） <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じて人の健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えられる。</u></li> </ul>
遺伝子組換え食品等（3品目）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・線虫抵抗性及び4-ヒドロキシフェニルピルビン酸ジオキシゲナーゼ阻害型除草剤耐性ダイズGMB151（食品） <u>「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準」に基づき評価した結果、人の健康を損なうおそれはないと判断。</u></li> <li>・線虫抵抗性及び4-ヒドロキシフェニルピルビン酸ジオキシゲナーゼ阻害型除草剤耐性ダイズGMB151（飼料） <u>「遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方」に基づき評価した結果、改めて「遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準」に準じて評価を行う必要はなく、当該飼料を摂取した家畜に由来する畜産物については、人の健康を損なうおそれはないと判断。</u></li> <li>・JPBL012株を利用して生産されたプロテアーゼ <u>「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」に基づき評価した結果、人の健康を損なうおそれはないと判断。</u></li> </ul>

(3) その他

- ・「食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針の一部改正（案）」を決定
- ・「食品により媒介される微生物等に関する食品健康影響評価指針（案）」を決定
- ・食品安全モニターからの随時報告について（令和3年4月～令和4年3月分）

## 2. 専門調査会等の運営（全30回）

専門調査会等名	開催回数	調査審議案件
企画等	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度食品安全委員会運営状況報告書について</li> <li>令和4年度食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価の案件選定の進め方について</li> <li>令和3年度食品安全委員会緊急時対応訓練結果について</li> </ul>
添加物	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>L-システイン塩酸塩</li> </ul>
農薬第一	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>座長の選出、座長代理の指名</li> </ul>
農薬第二	3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>座長の選出、座長代理の指名</li> <li>ヨウ化メチル</li> <li>ピリダクロメチル</li> </ul>
農薬第三	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>座長の選出、座長代理の指名</li> <li>メトブロムロン</li> </ul>
農薬第四	3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>座長の選出、座長代理の指名</li> <li>イソピラザム</li> <li>フルミオキサジン</li> </ul>
農薬第五	4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>座長の選出、座長代理の指名</li> <li>フルジオキシニル</li> <li>フルトラニル</li> <li>イソプロチオラン</li> </ul>
動物用医薬品	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>座長代理の指名</li> <li>マホプラジン</li> <li>イソシンコメロン酸二プロピル</li> <li>牛ウイルス性下痢ウイルス（N<sup>pro</sup>及びE<sup>rns</sup>遺伝子欠損1型・2型）生ワクチン（ボベラ）</li> <li>クエン酸モサプリドを有効成分とする牛の強制経口投与剤（牛用プロナミド散2%）</li> <li>モサプリド</li> </ul>
汚染物質等	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>カドミウム</li> </ul>
微生物・ウイルス	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>座長の選出、座長代理の指名</li> <li>食品により媒介される微生物に関する食品健康影響評価指針（暫定版）改正</li> <li>野生動物由来の食肉中のハザードに関する調査（文献調査）結果の報告</li> </ul>
遺伝子組換え食品等	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>コウチョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ（DP915635）（食品・飼料）</li> <li>CIT-No. 1株を利用して生産されたL-シトルリン</li> <li>ROM株を利用して生産された<math>\alpha</math>-アミラーゼ</li> </ul>
肥料・飼料等	4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>座長の選出、座長代理の指名</li> <li>ピリメタミン</li> <li>25-ヒドロキシコレカルシフェロール</li> <li>セフロキシム</li> <li>塩酸L-ヒスチジン</li> </ul>
栄養成分関連添加物ワーキンググループ	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>25-ヒドロキシコレカルシフェロール</li> </ul>

ぶどう酒の製造に用いる添加物に関するワーキンググループ	2回	・フィチン酸カルシウム ・硫酸銅
-----------------------------	----	---------------------

### 3. 意見交換会の開催等

#### (1) 講師派遣（全4回、うち委員3回）

開催日	開催地	講演会名	依頼者	対象者
5/9	東京都	東京農業大学食品安全研究センター開設記念講演会 ※山本委員長	東京農業大学	大学関係者 食品関連事業者等
5/20	東京都	ifia HFE JAPAN 2022 安全性評価・精度管理セッション 基調講演 ※川西委員	株式会社 食品化学新聞社	食品関連事業者等
6/6	東京都	第1回関東ブロックイベント企画 「残留農薬のリスク管理の動向と 食品安全を支える微生物検査」 ※浅野委員	日本食品衛生学会	一般消費者 食品関連事業者等
6/13	滋賀県	生物生産学概論（授業内1コマ）	長浜バイオ大学	学生

#### (2) 訪問学習（全1回）

開催日	内容	依頼者	対象者
6/28	防衛医科大学校の学生受け入れ （食品安全についての講義及び医系技官との情報交換）	防衛医科大学	学生

#### 4. 情報提供

##### (1) Facebook、ブログ

健康に被害を及ぼすおそれのある案件、国民の関心が高い案件についての機動的な情報提供。

##### ■ 4月：19記事

閲覧数 (Facebook) 58,566件/月、(ブログ) 1,189件/月

投稿日	記事内容
1	令和4年度 食品安全委員会運営計画を公表しました 【食品安全委員会 3/28～4/1の公表事項】
5	令和4年度調査事業「アレルギーを含む食品のファクトシートのための科学的知見の収集等に関する調査(乳、麦類)」の公募について
6	【精講動画公開のお知らせ】食中毒を起こす微生物の性質と牛肉を安全に調理するポイントを知ろう
8	【食品安全委員会 4/4～4/8の公表事項】
12	4/12に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
15	【「加熱と調理～トンカツ編～」の動画を公開しました】 【食品安全委員会 4/11～4/15の公表事項】
16	北海道における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認について
19	4/19に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します
22	食品健康影響評価事業等功労者の大臣表彰が行われました 【食品安全委員会 4/18～4/22の公表事項】
25	食品健康影響評価事業等功労者表彰受賞者紹介 田村 豊 氏インタビュー
27	食品健康影響評価事業等功労者表彰受賞者紹介 佐藤 洋 氏インタビュー 【「加熱と調理～ハンバーグ編～」の動画を公開しました】 4/26に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します
28	食べ物は、食べ物であって、毒でも薬でもないという当たり前のことを伝える価値-フードファティズムと戦う- 【キッズボックス】食中毒は3つのルールでやっつけよう！[細菌の場合] (2022

年4月号)
【編集後記 卯月】GWは安全でおいしい肉料理はいかが？

■ 5月：13記事

閲覧数（Facebook）122,309件/月、（ブログ）2,676件/月

投稿日	記事内容
2	【食品安全委員会 4/25～4/28の公表事項】
10	ホタルイカの生食は危険です！ 令和3年度食品健康影響評価事業等功労者大臣表彰 特集ページを公開しました 5/10に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
11	【食品安全モニターの意識調査結果を公表しました】
13	【食品安全委員会 5/9～5/13の公表事項】
18	5/17に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
20	【食品安全委員会 5/16～5/20の公表事項】
23	【キッズボックス】貝の毒に気をつけよう！（2022年5月号）
24	5/24に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
25	【6月7日は世界食品安全の日①～動画を公開しました～】
27	【食品安全委員会 5/23～5/27の公表事項】
31	【編集後記：皐月】 ifia JAPAN 2022（第27回 国産食品素材/添加物展・会議）に行ってきました

■ 6月：21記事

閲覧数（Facebook）46,225件/月、（ブログ）1,838件/月

投稿日	記事内容
2	5/31に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
3	【食品安全委員会 5/30～6/3の公表事項】
7	【6月7日は世界食品安全の日②～キッズボックス～】行動しよう！世界食品安

	全の日（2022年6月号）
	6/7に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
8	食育推進全国大会inあいち 紹介ページを公開しました
9	ファクトシートを更新しました～A型肝炎～
10	<b>【食品安全委員会 6/6～6/10の公表事項】</b>
13	ファクトシートを更新しました～エルシニア症～
14	6/14に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
15	<b>【講演レポート】</b> 日本食品衛生学会ブロックイベントで浅野委員が講演しました
17	<b>【食品安全委員会 6/13～6/17の公表事項】</b>
20	ファクトシートを更新しました～フラン類～
21	長浜バイオ大学への講師派遣を行いました
22	6/21に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
24	<b>【食品安全委員会 6/20～6/24の公表事項】</b>
27	"Food Safety - The Official Journal of Food Safety Commission"Volume. 10, Number 2 has just been published.
	食品安全委員会の英文電子ジャーナル「Food Safety - The Official Journal of the Food Safety Commission」 Vol. 10, No.2を公開しました。
29	<b>【食品安全モニターからの報告を公表しました】</b>
	6/28に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します
30	<b>【編集後記：水無月】</b> 気温上昇中！食中毒にご注意を！
	<b>【「農薬の安全の確保について」の動画を公開しました（6月30日）】</b>

(2) Twitter

食中毒の防止法等、一般消費者にとって身近で関心（共感）の高いものや、タイムリーなもの、緊急性の高いものを中心に情報発信。

■ 4月：7記事（ほか関係省庁等のリツイート2記事）

閲覧数24,625件/月、フォロワー1,100人

投稿日	記事内容
6	食品安全委員会の山本委員長が食のプロフェッショナルの方を対象に「食中毒を起こす微生物の性質と牛肉を安全に調理するポイントを知ろう」をテーマに講演しました。動画の視聴はこちらから。 まずは前編： <a href="https://www.youtube.com/watch?v=29eKOMYkius">https://www.youtube.com/watch?v=29eKOMYkius</a>
	食品安全委員会の山本委員長が食のプロフェッショナルの方を対象に「食中毒を起こす微生物の性質と牛肉を安全に調理するポイントを知ろう」をテーマに講演しました。動画の視聴はこちらから。 続いて後編： <a href="https://www.youtube.com/watch?v=POWP8Ms4aCw">https://www.youtube.com/watch?v=POWP8Ms4aCw</a>
12	春は #野草 や #山菜 採り、#家庭菜園 で間違っって有毒植物を食べてしまうことによる #食中毒 が発生しやすい季節です。
14	今日 4/14で熊本地震から6年です。
15	#トンカツ はあらゆる世代に人気の料理。
27	#ハンバーグ は人気のひき肉料理。
28	若葉のきれいな季節。 #遠足 や家族での #ハイキング などでの #お弁当 も楽しいですね。

■ 5月：8記事

閲覧数169,524件/月、フォロワー1,152人

投稿日	記事内容
10	#ホタルイカ の生食は危険です！
11	「食品安全モニター」に行った、食品の安全性の意識調査結果を公表しました。
16	飼料添加物としての使用の禁止につながった、硫酸コリスチンの使用によって発生する薬剤耐性菌の #リスク評価 などについてお話いただきました。
17	#リスク評価 というのは、「なぜやらなければいけないのか」ということを考えながら進めることがよいリスク評価に繋がるし、そうしてできたリスク評価はリスコミにも耐えうるものになる。

18	食べ物は、食べ物であって、毒でも薬でもないという当たり前のことを伝える価値
	#東京ビックサイト で #ifia/HFE JAPAN 2022にブースを出し、「食品の安全に関する用語集」や、広報誌「食品安全」などを配布しています。また、20日10:15より川西委員が食品添加物に関する講演も行います。
23	#潮干狩り のシーズンです♪
25	6月7日は世界食品安全の日。食品安全への認識を高めるために制定されています。

■ 6月：5記事（ほか関係省庁等のリツイート14記事）  
 閲覧数74,508件/月、フォロワー1,179人

投稿日	記事内容
7	今日は世界食品安全の日。食品の安全に関わる一人一人がそれぞれの役割を確認し、行動する日です。→ <a href="http://www.fsc.go.jp/kids-box/">http://www.fsc.go.jp/kids-box/</a>
8	皆さん、世界食品安全の日へのご参加ありがとうございました！
29	日頃の生活の中で気が付いた #食品安全 に関する課題や問題点についての提案・報告を頂く「食品安全モニター」からの報告を取りまとめました。
30	早くも #梅雨明け #気温上昇中！テイクアウト・デリバリーでさっぱりしたメニューを♪というときも、売る側、買う側、それに置き配も、それぞれ #食中毒に注意が必要です。
	様々な省庁が関係する #農薬 の登録制度の全体像や、新たに始まった農薬の再評価制度について解説する動画を公開しました。

(3) YouTube

食品の安全性に関する科学的な知識の普及啓発や、その他食品の安全に関する情報についての動画による情報発信

(4～6月に公開した動画の合計視聴回数 4,112回、チャンネル登録者数 790人)

公開月日	記事内容	視聴回数 (公開日～7/8)
4月6日	令和3年度【精講：食中毒を起こす微生物の性質と牛肉を安全に調理するポイントを知ろう（前編）】	664回
	令和3年度【精講：食中毒を起こす微生物の性質と牛肉を安全に調理するポイントを知ろう（後編）】	340回
4月15日	加熱と調理「トンカツ編」	695回
4月27日	加熱と調理「ハンバーグ編」	1,009回
5月24日	2022年世界食品安全の日に向けて「より安全な食品で、より良く健康に」	677回
6月30日	農薬の安全の確保について	727回

## 食品健康影響評価の審議状況

2022/6/30

区分	諮問案件						自ら評価
	要請件数 注1、2)	うち 令和4年度分	審議中 注3)	意見 募集中 注4)	評価終了 件数	うち 令和4年 度分	評価終了 注5)
添加物	303	1	4	1	298		
栄養成分添加物	2				2	1	
香料	7				7		
農薬	1335	9	143	2	1190	14	
うちポジティブリスト関係	543		130		413	2	
うち清涼飲料水	25				25		
うち飼料中の残留農薬基準	59		16		43	1	
動物用医薬品	645	4	18	1	626	2	3
うちポジティブリスト関係	137		15	1	121	1	
器具・容器包装	21		1		20		
汚染物質等	68		1		67		4
うち清涼飲料水	52				52		
微生物・ウイルス	21				21		2
プリオン	67		8		59		14
かび毒・自然毒	9				9		5
遺伝子組換え食品等	371	2	19	1	351	6	
新開発食品	91				91		3
肥料・飼料等	314	2	31	1	282	5	
うちポジティブリスト関係	142		26	1	115	3	
薬剤耐性菌	70	1	9		61		2
高濃度にジアシルグリセロールを含む食品に関するWG	1				1		
食品による窒息事故に関するWG	1				1		
放射性物質の食品健康影響に関するWG	2				2		
アレルゲンを含む食品に関するWG							1
その他(指定成分、アルミニウム等)	2				2		2
合計	3330	19	234	6	3090	28	36

- (注) 1 リスク管理機関から、評価要請後に取り下げ申請があった場合には、その分を要請件数から減じている。  
2 評価の過程で新たに審議する必要がある案件が生じた場合には、評価終了時にその案件数を要請件数に加算している。  
3 「審議中」欄には、審議継続の案件のほか、今後検討を開始するものを含む。  
4 「意見募集中」欄には、意見情報の募集を締め切った後に検討中のものも含む。  
5 自ら評価案件については、「評価終了」の欄では、複数省庁に答申したもの、答申が複数案件となったもの等について、その数を記入しているものもある。  
6 「飼料中の残留農薬基準」欄については、ポジティブリスト制度の導入に際して、飼料中の残留基準が設定された農薬についての食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件数である。  
7 「薬剤耐性菌」欄には、肥飼料・微生物合同調査会(H18.3.6～H27.8.24)で審議したものも含む。

# 委員会の意見の聴取に関する案件の審議状況

(2022年6月30日現在)

参考2

## I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2003/12/8	農	薬剤耐性菌 飼料添加物として指定された抗菌性物質、動物用医薬品のうち、飼料添加物として指定されている抗菌性物質と同一又は同系統で薬剤耐性の交差が認められる抗菌性物質により選択される薬剤耐性菌※（水生動物に使用するスルフォアミド系合成抗菌剤、テトラサイクリン系抗生物質及びマクロライド系抗生物質。）	3
2004/10/29	農	薬剤耐性菌 チアンフェニコールを有効成分とする牛及び豚の注射剤（ネオマイゾン注射液及びバシット注射液）〔耐〕、アンピシリンナトリウムを有効成分とする牛の注射剤（注射用ビクシリン）〔耐〕	2
2005/2/14	厚	農薬 ジコホール	1
2005/8/5	農	動物用医薬品 薬剤耐性菌 スルファメトキサゾール及びトリメトプリムを有効成分とする豚の飲水添加剤（動物用シノラール液）〔肥〕、動物用医薬品 ホスホマイシンを有効成分とする牛の注射剤（動物用ホスミスンS（静注用））〔耐〕	2
2005/9/13	厚	動物用医薬品 スルファメトキサゾール〔肥〕	1
2006/7/18	厚	動物用医薬品 スルファメトキサゾール☆〔肥〕	1
2006/7/18	厚	農薬 ジコホール☆	1
2006/12/19	厚	農薬 フリラゾール☆	1
2007/1/12	厚	農薬 イマゼタピルアンモニウム塩☆、ピノキサデン☆	2
2007/2/6	厚	農薬 スピロキサミン☆	1
2007/2/6	厚	動物用医薬品 アレスリン☆、クロルマジノン☆、スルフィソゾール☆	3
2007/3/6	厚	農薬 トリチコナゾール☆	1
2007/3/6	厚	動物用医薬品 イソシンコメロン酸ニプロピル☆	1
2007/3/20	厚	動物用医薬品 スルファジメトキシシン☆〔肥〕、スルファモメトキシシン☆〔肥〕	2
2007/6/5	厚	農薬 メソスルフロンメチル☆、スルフェントラゾン☆	2
2007/10/2	厚	農薬 ジクロメジン<一部>☆	2
2007/12/18	厚	農薬 クロピラリド☆、イソキサジフェンエチル☆	2
2008/3/11	厚	農薬 酸化プロピレン☆、プロディファコウム	2
2008/3/25	厚	農薬 イプロバリカルブ☆、スルホスルフロン、ピリデート、フッ化スルフリル	4
2008/6/3	厚	動物用医薬品 トビシリン〔肥〕	1
2008/7/8	厚	農薬 クロキントセットメキシル☆、クロジナホッププロパルギル☆	2
2008/7/8	厚	器具・容器包装 ビスフェノールAがヒトの健康に与える影響について※	1
2008/9/5	厚	汚染物質 カドミウム	1
2009/2/3	厚	農薬及び動物用医薬品 ホキシム☆	2
2009/2/9	厚	農薬 エチオン☆、オキシデメトンメチル☆、ジクロラン☆、ジノカップ☆、フェンプロピモルフ☆、ベナラキシル☆、ホレート☆	7
2009/3/24	厚	農薬 パラチオンメチル☆、フェナミホス☆	2
2009/3/24	厚	農薬及び動物用医薬品 ジクロロボス及びナレド☆	2
2010/2/16	厚	対象外物質 アスタキサンチン☆〔肥〕、β-アポ-8'-カロチン酸エチルエステル☆〔肥〕、β-カロテン☆〔肥〕、酒石酸☆〔肥〕、トウガラシ色素☆〔肥〕、乳酸☆<農薬用途もあり>〔肥〕、マリーゴールド色素☆〔肥〕、メナジオン☆〔肥〕、レチノール☆〔肥〕	10
2010/3/1	厚	農薬 フルロキシピル☆	1
2010/5/11	厚	農薬 クロルデン☆	1
2010/8/12	厚	農薬 ハロキシホップ☆	1
2010/9/13	厚	農薬 クロマゾン☆、トリクロピル☆	2
2010/9/27	厚	農薬 酸化フェンブタズ☆	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2010/11/12	厚	農薬 イマザリル☆、ジフルフェンゾピル☆、ジメチピン☆、テルブホス☆、トリアスルフロン☆、パラチオン☆、ビクロゾリン☆、モノクロトホス☆	8
2010/11/15	農	農薬 テルブホス〈飼〉☆	1
2010/12/10	厚	農薬及び動物用医薬品 クロルフェンビンホス☆	2
2010/12/10	厚・農	農薬及び動物用医薬品 メトプレン☆〈一部〈飼〉〉	3
2011/1/24	厚	農薬 ペンコナゾール☆	1
2011/1/24	厚	動物用医薬品 セフロキシム☆[肥]	1
2011/2/10	厚	農薬 エンドスルファン☆、クロリムロンエチル☆、クロルタールジメチル☆	3
2011/3/25	厚	農薬 エタメツルフロンメチル☆、ジスルホトン☆、プロモキシニル☆	3
2011/4/19	厚	添加物 カルミン	1
2011/4/25	農	農薬 プロモキシニル☆〈飼〉	1
2011/9/22	厚	農薬 EPTC☆、アミノピラリド☆、イオドスルフロンメチル☆、2,4-DB☆、クロルスルフロン☆、シクロキシジム☆、ジフェンゾコート☆、テクナゼン☆、ニコスルフロン☆、マレイン酸ヒドラジド☆、メトスルフロンメチル☆	11
2011/10/11	厚	農薬 ジクロホップメチル☆、トリベヌロンメチル☆、ピクロラム☆、フェノキサプロップエチル☆、ブタフェナシル☆、フルオメツロン☆、アトラジン☆	7
2011/10/11	農	農薬 アトラジン☆〈飼〉	1
2011/11/18	厚	農薬 トラルコキシジム☆、フェノキシカルブ☆、プロスルフロン☆	3
2011/12/19	厚	プリオン 牛海綿状脳症 (BSE) 対策の見直し(オランダ)	1
2012/1/23	厚	農薬及び動物用医薬品 シハロトリン☆	2
2012/1/23	農	農薬 エチオン☆〈飼〉、ホレート☆〈飼〉、シハロトリン☆〈飼〉、ジクロルボス及びナレド☆〈飼〉	4
2012/1/23	厚	動物用医薬品 スルファジミジン☆[肥]	1
2012/3/26	厚	農薬 リムスルフロン☆	1
2012/3/26	厚	農薬及び動物用医薬品 エマメクチン安息香酸塩☆	2
2012/5/21	厚	農薬 4-クロルフェノキシ酢酸☆、トリデモルフ☆、フラムプロップメチル☆	3
2012/7/18	厚	農薬 テフルトリン☆	1
2012/8/21	厚	農薬 フサライド☆、フルスルファミド☆	2
2012/9/18	厚	農薬 メコプロップ☆	1
2013/1/22	農	農薬 クロルピリホスメチル☆〈飼〉、クロルフェンビンホス☆〈飼〉、シマジン☆〈飼〉、パラチオン☆〈飼〉	4
2013/1/30	厚	農薬 クロルピリホスメチル☆、シマジン☆	2
2013/3/12	厚	農薬 アイオキシニル☆、エテホン☆、オキサミル☆、カルフェントラゾンエチル☆、クロリダゾン☆、ターバシル☆、ピリミホスメチル☆、フルシトリネート☆、ホルクロルフェニユロン☆、メタミトロン☆、メチダチオン☆、レナシル☆	12
2013/3/12	農	農薬 ピリミホスメチル☆〈飼〉	1
2013/4/2	厚	プリオン プリオン ポーランドから輸入される牛肉及び牛の内臓について※	1
2013/6/10	農	農薬 γ-BHC☆〈飼〉、ジメトエート☆〈飼〉、メチダチオン☆〈飼〉	3
2013/6/12	厚	農薬 アラニカルブ☆、イマザキン☆、ジウロン☆、シプロコナゾール☆、ジメトエート☆、フルキンコナゾール☆	6
2013/8/20	厚	農薬 DBEDC■〈一部☆〉、ノニルフェノールスルホン酸銅■〈一部☆〉、イマザモックスアンモニウム塩☆、ヒメキサゾール☆、メトリブジン☆、リニュロン☆	8
2013/8/20	厚	農薬及び動物用医薬品 ジヒドロストレプトマイシン及びストレプトマイシン☆[肥]	2
2014/9/9	厚	農薬 ピラゾリネート☆	1
2015/1/8	厚	プリオン スウェーデンから輸入される牛肉及び牛の内臓 ※	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2015/5/14	厚	プリオン スイス及びリヒテンシュタインから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/9/30	厚	プリオン イタリアから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/12/18	厚	プリオン 牛海綿状脳症（BSE）国内対策の見直し※	1
2017/4/19	厚	農薬 ピレトリン☆	1
2017/8/3	厚	プリオン 英国から輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓 ※	1
2017/11/30	厚	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマト（TU-IP105B-1）（食品）■	1
2017/12/19	農	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマト（TU-IP105B-1）（飼料）■	1
2018/7/4	農	動物用医薬品 バルネムリン塩酸塩を有効成分とする豚の飼料添加剤（エコノア1%プレミックス及び同10%プレミックス）■[耐]	1
2019/2/27	農	動物用医薬品 アモキシシリン水和物を有効成分とする牛及び豚の注射剤（アモスタックLA注）■[耐]	1
2019/10/24	厚	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性サトウキビ CTC175-A■、CA02-1191株を利用して生産されたL-グルタミン酸ナトリウム■	2
2020/2/13	厚	動物用医薬品 ジニトルミド ☆[肥]	1
2020/3/17	厚	動物用医薬品 クロステボル☆、ジブチルサクシネート☆、トリブロムサラン☆、ノルジェストメット☆、ヒドロコルチゾン☆、マホプラジン☆	6
2020/3/17	厚	飼料添加物 オルメトプリム☆、スルファクロルピリダジン☆、スルファジアジン☆、スルファドキシム☆、スルファモイルダプソン☆、ピリメタミン☆アンプロリウム☆、エトパベート☆、スルファキノキサリン☆	9
2020/5/13	厚	プリオン 「ドイツから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓」※	1
2020/9/24	厚	Ra α3114株を利用して生産されたプロテアーゼ■	1
2020/9/24	厚	RG-V1株を利用して生産されたL-バリン■	1
2020/10/16	農	遺伝子組換え食品等 長鎖多価不飽和脂肪酸含有及びイミダゾリノン系除草剤耐性セイヨウナタネLBFLFK（飼料）■	1
2020/10/19	厚	遺伝子組換え食品等 長鎖多価不飽和脂肪酸含有及びイミダゾリノン系除草剤耐性セイヨウナタネLBFLFK（食品）■	1
2021/2/4	厚	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ（DP23211）（飼料）■	1
2021/2/9	厚	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ（DP23211）（食品）■	1
2021/5/14	農	遺伝子組換え食品等 DHA産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ（NS-B50027-4）（飼料）■	1
2021/5/17	厚	遺伝子組換え食品等 DHA産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ（NS-B50027-4）（食品）■	1
2021/9/28	厚	遺伝子組換え食品等 CIT-No.1株を利用して生産されたL-シトルリン■、VAL-No.5株を利用して生産されたL-バリン■	2
2021/11/5	厚	遺伝子組換え食品等 DIDK-0176株を利用して生産されたホスホリパーゼ■	1
2021/12/8	厚	農薬 1,4-ジメチルナフタレン■	1
2022/1/25	厚	添加物 フィチン酸カルシウム	1
2022/2/17	農	肥料・飼料等 25-ヒドロキシトコカルシフェロール■	1
2022/2/21	厚	添加物 L-システイン塩酸塩■	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2022/3/23	厚	農薬 ヨウ化メチル■	1
2022/3/15	農	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ (DP915635) (飼料) ■	1
2022/3/16	厚	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ (DP915635) (食品) ■	1
2022/4/21	厚	農薬 フルトラニル■	1
2022/4/21	厚	農薬及び動物用医薬品 シペルメトリン■	1
2022/4/22	農	肥料・飼料等 塩酸L-ヒスチジン■	1
2022/5/20	厚	遺伝子組換え食品等 ROM株を利用して生産された $\alpha$ -アミラーゼ■	1
2022/5/25	厚	農薬 ピリプロキシフェン■、フルピラジフロム■、フルミオキサジン■、メトキシフェノジド■	4
2022/5/25	厚	農薬及び動物用医薬品 イソプロチオラン■	1
2022/5/25	厚・農	動物用医薬品 クエン酸モサプリドを有効成分とする牛の強制経口投与剤 (牛用プロナミド散2%) ■、モサプリド■、牛ウイルス性下痢ウイルス (Npro及びErns遺伝子欠損1型・2型) 生ワクチン (ボベラ) ■	3
2022/6/15	農	薬剤耐性菌 アミノグリコシド系抗生物質が動物用医薬品として家畜に投与された場合に選択される薬剤耐性菌	1
2022/6/20	厚	遺伝子組換え食品等 JPBL013株を利用して生産された $\alpha$ -アミラーゼ■	1
2022/6/22	厚	添加物 ポリビニルアルコール■	1

(注)

☆印は、ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件である。

※印は、食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件である。

■印は、企業申請案件である (平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ)。

◎印は、食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価である。

[肥]印は、肥料・飼料等専門調査会が担当する評価案件である。

[耐]印は、薬剤耐性菌に関する評価が必要なもの。

## Ⅱ 専門調査会における審議結果（案）について意見募集を行っているもの

募集期間	対象となる審議結果（案）	
2022/5/18～2022/6/16	肥料・飼料等 ジクロキサシリン☆	1
2022/5/25～2022/6/23	農薬 メトプロムロン■	1
2022/6/22～2022/7/21	添加物 硫酸銅	1
2022/6/29～2022/7/28	農薬 ピリダクロメチル■	1
2022/6/29～2022/7/28	動物用医薬品 ジミナゼン☆	1
2022/6/29～2022/7/28	遺伝子組換え食品等 Bacillus subtilis NTI05 (pHYT2Aopt) 株を利用して生産されたシクロデキストリングルカノトランスフェラーゼ■	1

（注）

★は案件については意見募集は終了している。

☆印は、ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件である。

※印は、食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件である。

■印は、企業申請案件である（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）。

◎印は、食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価である。

[肥]印は、肥料・飼料等専門調査会が担当する評価案件である。

[耐]印は、薬剤耐性菌に関する評価が必要なもの。

Ⅲ 食品安全委員会において既に食品健康影響評価を終了したもの（令和4年度）

通知日	通知先	食品健康影響評価の対象	
2022/4/13	厚	肥料・飼料等 ジアベリジン☆	1
2022/4/27	厚	遺伝子組換え食品等 JPAN004株を利用して生産された $\alpha$ -アミラーゼ■、JPBL007株を利用して生産された $\alpha$ -アミラーゼ■	2
2022/5/10	厚	農薬 アセキノシル■、トリネキサパックエチル■、ピラジフルミド■、トリフロキシストロビン■	4
2022/5/18	厚	肥料・飼料等 クエン酸（対象外物質）☆	1
2022/5/18	厚	栄養成分添加物 25-ヒドロキシコレカルシフェロール■	1
2022/5/18	厚	農薬 ピリダリル■、ホスチアゼート■	2
2022/5/26	厚	農薬 ゾキサミド■	1
2022/5/26	厚	動物用医薬品 チオプロニン☆	1
2022/5/26	農	肥料・飼料等 アンピシリンナトリウムを有効成分とする牛の注射剤（注射用ビクシリン）【再審査】■、エンラマイシン☆	2
2022/5/31	厚	農薬 イソピラザム■、フルジオキシニル■	2
2022/6/1	厚	動物用医薬品 スルファチアゾール■	1
2022/6/1	農	遺伝子組換え食品等 Komagataella phaffii BSY0007株を利用して生産されたフィターゼ■	1
2022/6/8	厚	農薬 くん液蒸留酢酸（対象外物質）■	1
2022/6/16	厚	遺伝子組換え食品等 線虫抵抗性及び4-ヒドロキシフェニルピルビン酸ジオキシゲナーゼ阻害型除草剤耐性ダイズGMB151（食品）■、線虫抵抗性及び4-ヒドロキシフェニルピルビン酸ジオキシゲナーゼ阻害型除草剤耐性ダイズGMB151（飼料）■、JPBL012株を利用して生産されたプロテアーゼ■	3
2022/6/28	厚	農薬 イソフェタミド■、クロルフルアズロン■、パラコート☆〈飼〉	4
2022/6/30	農	動物用医薬品 オメプラゾールを有効成分とする馬の強制経口投与剤（ガストロガード）■	1

（注）

☆印は、ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件である。

※印は、食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件である。

■印は、企業申請案件である（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）。

◎印は、食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価である。

[肥]印は、肥料・飼料等専門調査会が担当する評価案件である。

[耐]印は、薬剤耐性菌に関する評価が必要なもの。

#### IV その他

通知日	通知先	件名
2004/1/30	厚・農・環	遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準 遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方
2004/3/18	農	普通肥料の公定規格に関する食品健康影響評価の考え方
2004/3/25	厚・農・環	遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準
2004/5/6	厚・農・環	遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方
2004/8/5	厚・農	特定保健用食品の安全性評価に関する基本的考え方
2004/9/30	農	家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針
2005/4/28	厚・農・環	遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物のうち、アミノ酸等の最終産物が高度に精製された非タンパク質性添加物の安全性評価の考え方
2006/6/29	厚・農	暫定基準が設定された農薬等の食品健康影響評価の実施手順
2007/9/13	厚・農	食品により媒介される微生物に関する食品健康影響評価指針（暫定版）
2008/6/26	厚・農・環	遺伝子組換え食品（微生物）の安全性評価基準
2010/5/27	厚	添加物に関する食品健康影響評価指針
2016/5/17	厚	香料に関する食品健康影響評価指針
2017/7/18	厚	添加物に関する食品健康影響評価指針（改正） 栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針 添加物（酵素）に関する食品健康影響評価指針
2018/4/10	厚・農	動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針
2018/9/25	厚・農	飼料添加物に関する食品健康影響評価指針 動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針（改訂）
2019/5/28	厚	食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針
2019/10/1	厚・農	残留農薬に関する食品健康影響評価指針
2019/10/29	厚・農	食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針
2019/11/13	厚・農	遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方
2020/3/24	厚・農	食品安全委員会専門調査会等運営規定 改正
2020/6/16	厚・農	残留農薬の食品健康影響評価におけるコリンエステラーゼ阻害作用を有する農薬の取扱いについて
2020/7/7	厚・農	暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について
2020/10/6	厚	食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針（改訂）
2021/4/6	厚・農	残留農薬に関する食品健康影響評価指針（改訂）
2021/5/18	厚・農	飼料添加物に関する食品健康影響評価指針
2021/9/29	厚	添加物に関する食品健康影響評価指針（改正） 香料に関する食品健康影響評価指針（改正） 添加物（酵素）に関する食品健康影響評価指針（改正） 栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針（改正）
2022/3/22	農	家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針の一部改正 食品を介してヒトの健康に影響を及ぼす細菌に対する抗菌性物質の重要度のランク付けについての一部改正
2022/6/21	厚・農	食品により媒介される微生物等に関する食品健康影響評価指針（改正）